

開会挨拶

全国エリアマネジメントネットワーク会長 小林 重敬 氏

全国エリアマネジメントネットワークと京都大学経営管理大学院共催によるシンポジウムに参加いただきありがとうございます。日本のエリアマネジメント活動は、ここ大手町で、司会の中嶋が関わっている大丸有エリアマネジメント協会が約15年前に始めました。それと並行していくつかのエリアマネジメントの活動があり、その後続々と我が国で展開するようになりました。しかし、ここ数年日本のエリアマネジメントを考えると大きな転換点にあると思います。一点目は、本日主催の全国エリアマネジメントネットワークが2016年に誕生し、それと前後して京都大学でエリアマネジメントについて専門的に調査研究する組織が生まれ、さらに私が所属している森記念財団でも集中的にエリアマネジメントについての調査研究を行うという状況が生まれました。二点目は、あとでお話しますが、内閣府によって「地域再生エリアマネジメント負担金制度」という新たな制度が誕生したことです。この負担金制度については京都大学や森記念財団の研究成果もかなり関わっておりますが、何よりも全国エリアマネジメントネットワークで議論している中で、日本のエリアマネジメント活動は財源問題が抜き差しならぬ課題であることを皆さんと共有し、解決策を国や自治体に訴えてきたところです。

「地域再生エリアマネジメント負担金制度」はまだ発足して間もないので中身はご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、「賑わいの創出により事業者の事業機会の拡大や収益性の向上といった経済効果を生ずる活動を対象とする」ことを一番に謳っています。この「賑わいの創出」ということに着目すると、海外のBIDの中で最もこの趣旨に合う活動をしているのが英国です。本日はその英国から、英国のBIDの中心的な活動されているサイモン氏をお迎えして講演いただくという、またとない機会を得ることができました。昨日は全国エリアマネジメントネットワークの事務局とサイモン氏で内部の意見交換させていただきました、大変興味深いお話をいただきました。今日もサイモン氏から興味深いお話があるものと思います。ぜひご期待いただきたいと思います。

最後に本シンポジウム開催にあたって、多くの関係者の方々のご努力があったと聞いております。その方々に感謝し私のお話とさせていただきます。どうもありがとうございます。